

大村湾を里海にするには？

2019年5月25日(土) 14:00～17:10

長崎大学
文教キャンパス 文教スカイホール



主催：日本環境共生学会
共催：国立大学法人長崎大学、土木学会



プログラム

14:00 開会挨拶

基調講演

「大村湾の里海回帰を探る」

中村 拓朗（長崎水中写真家・ダイビングサービス海だより）

15:00～15:50 パネルディスカッション
コーディネーター：日高 健（近畿大学教授）
和田 実（長崎大学教授）
長尾 成浩（大村湾商事）
吉原 直樹（長崎県環境部地域環境課長）
中村 拓朗（ダイビングサービス海だより）

16:00～17:00 質疑応答含む全体討論

17:00 閉会挨拶

お問い合わせ先

日本環境共生学会 第22回（2019年度）
地域シンポジウム実行委員会・本部事務局
Eメール：jahes2019local@gmail.com
WEBサイト：http://jahes.jp/

定員200名
（先着順）

参加費無料
事前申込不要

第22回（2019年度）地域シンポジウム

➤ 趣旨

大村湾は国内でも有数の閉鎖性海域である。この海は、もともとスズキやクロダイ、ガザミ、ナマコといった水産物が豊富で、かつては豊饒の海と呼ばれた。一方で、流域には5市5町を配しており、漁業や観光等、多くの人々が様々な形で大村湾とかかわりを持っている。地形上の特徴から人為的な影響を受けやすく、赤潮・青潮等の被害を度々受けてきた。県民にとっての宝の海・大村湾を実現するため、長崎県は平成15年度（2003年度）から4次にわたり全政府あげての計画「大村湾環境保全・活性化行動計画」を策定・遂行している。今年度は、その第4期計画が開始する年である。これまでの努力から水質は改善傾向であるが、賑わいのある大村湾は十分に達成できていない。これを実現するためには、より多くの人々が様々な形で大村湾に関わっていくことが求められる。これは、人間の手によって維持管理される沿岸域の理想的な姿「里海」を実現することを意味する。最近では、新たな漁業の方法、親水性を高める事業、多様な地域企業の興隆等、様々な動きが表れ始めている。シンポジウムでは、このようなボトムアップの動きを活発にし、大村湾を「宝の海」、そして、「里海」にするための方法について議論を深めたい。

➤ タイムテーブル

行事	時間	内容	場所
エクスカーション 〈195分〉	8:45 12:00	大村湾沿岸を視察 (学会会員のみ参加可能) (会費1000円/当日支払)	環境科学部 玄関前集合 (8:45集合)
総会・表彰式 〈45分〉	13:00 13:45	(学会会員のみ参加可能)	グローバル教育・ 学生支援棟 3階 G-38教室
地域シンポジウム (一般公開) 〈190分〉	14:00 17:10	基調講演 パネルディスカッション 休憩 全体討論	グローバル教育・ 学生支援棟 4階 文教スカイホール
交流会 〈120分〉	17:30 19:30	立食ビュッフェ形式 (学会会員のみ参加可能) (会費3,500円/当日支払)	生協食堂 2階

➤ 学会会員限定：エクスカーション・交流会の参加申込方法

学会ホームページ掲載の参加申込書に必要事項を記入のうえ、実行委員会・本部事務局までメールでご送付ください jahes2019local@gmail.com